

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立富士中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

#### ■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

#### ■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

| 生徒に対する調査                                                                        | 学校に対する調査                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査<br>(例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、<br>基本的生活習慣、家庭学習の状況 など | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査<br>(例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、<br>学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など |

(2) 教科に関する調査(国語・数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### ■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

## ■調査結果及び考察

### 1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

#### (1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「**どちらかと言えば当てはまる**」と肯定的に回答した生徒の割合

| 佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目                                  | 本校 %  | 全国平均 % |
|-------------------------------------------------------|-------|--------|
| 学校に行くのは楽しいと思う。                                        | 71.4% | 86.1%  |
| 将来の夢や目標を持っている。                                        | 85.7% | 67.5%  |
| 自分には、よいところがあると思う                                      | 71.4% | 86.2%  |
| いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。                         | 100%  | 95.9%  |
| 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。                                  | 100%  | 96.6%  |
| 学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている | 71.5% | 84.7%  |

「将来の夢や目標を持っている」という項目は全国平均よりも上回っています。「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」と「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目は、すべての生徒が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えています。

| 家庭学習の様子に関する調査の項目                           | 本校%   | 全国平均 % |
|--------------------------------------------|-------|--------|
| 学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」 | 0%    | 9.9%   |
| 「2時間以上、3時間より少ない」                           | 0%    | 20.9%  |
| 「1時間以上、2時間より少ない」                           | 57.1% | 30.8%  |
| 「30分以上、1時間より少ない」                           | 42.9% | 19.1%  |
| 「30分より少ない」                                 | 0%    | 11.3%  |
| 「全くしない」                                    | 0%    | 7.7%   |

家庭学習を全くしていない生徒はいませんが、「2時間以上」学習している生徒もおらず、全国平均と比べて、家庭学習の時間は少ないです。

#### (2)改善に向けての取り組み

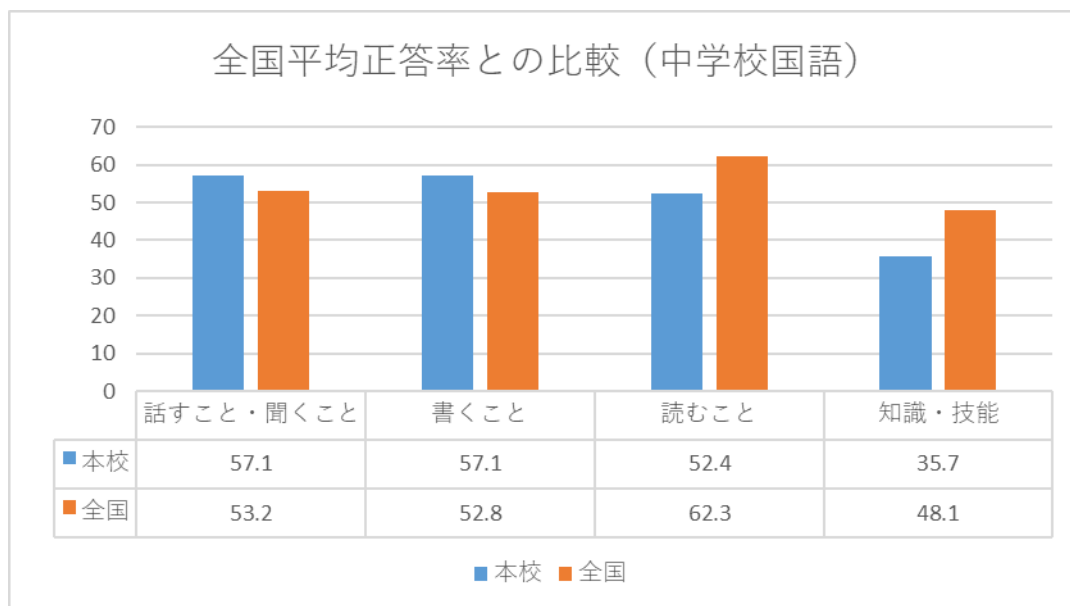
##### 【学校では】

- 授業では協働的な学びをとおして、思考を深め、表現力を高めることができるような授業づくりを行っています。
- 思考力・表現力を高めるための手立てとして、一分間スピーチに取り組んでいます。
- 家庭学習の充実を図るために、自主学習(自学)の取り組みを行っています。自学ノートの他に、ワーク(問題集)、e ライブラリ(デジタル教材)など、学習の選択肢を増やしました。授業中に学習内容について助言したり、提出された自学ノートに対して、教科担当からアドバイスしたりして、充実を図ります。すこやか週間生活チェックや学習アンケートなどを定期的に行い、生活や学習を把握し、よりよい学習習慣の構築のための助言を行っています。
- 今年度も、朝の会の前に朝読書を行っています。図書室と連携して中学生に読んでほしい本などを紹介したり、全員で同じ本を読む機会を持ったりして、読む本の幅を広げるよう工夫しています。

##### 【ご家庭では】

- 生徒質問紙の結果にあるように、家庭での学習時間が全国と比較しても短い傾向にあります。学習習慣が身に付くまでは、確認の声かけ、習慣が身に付いた生徒に対しては、内容の質を向上させていけるよう励ましの声かけをお願いします。定期テストや実力テストの前に学校で学習計画を立てています。計画的に、継続的に家庭学習を進めることができているか、ご家庭でも確認やお声かけをお願いします。

## 2 国 語



### (1) 結 果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「話すこと・聞くこと」「書くこと」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、ほとんどの問題で全国平均を下回っていますが、手紙の推敲を題材とした問題番号4の問題だけが全国平均よりも高くなっています。

### (2) 成果と課題

今回の調査で、「話すこと・聞くこと」が 3.9 ポイント上回り、「書くこと」が 4.3 ポイント上回りました。国語科の授業において日頃からグループ活動や表現活動を重視して取り組んでいる成果が表れていると考えられます。課題は、全国平均 9.9 ポイント下回っている「読むこと」の正答率を上げることです。また「知識・技能」についても 12.4 ポイント下回っています。「読むこと」については正答率の低い、表現の効果について学習する機会を増やす必要があります。また、「知識・技能」は繰り返し学習し、語彙力をつけていく必要があります。

### (3) 学力向上のための取り組み

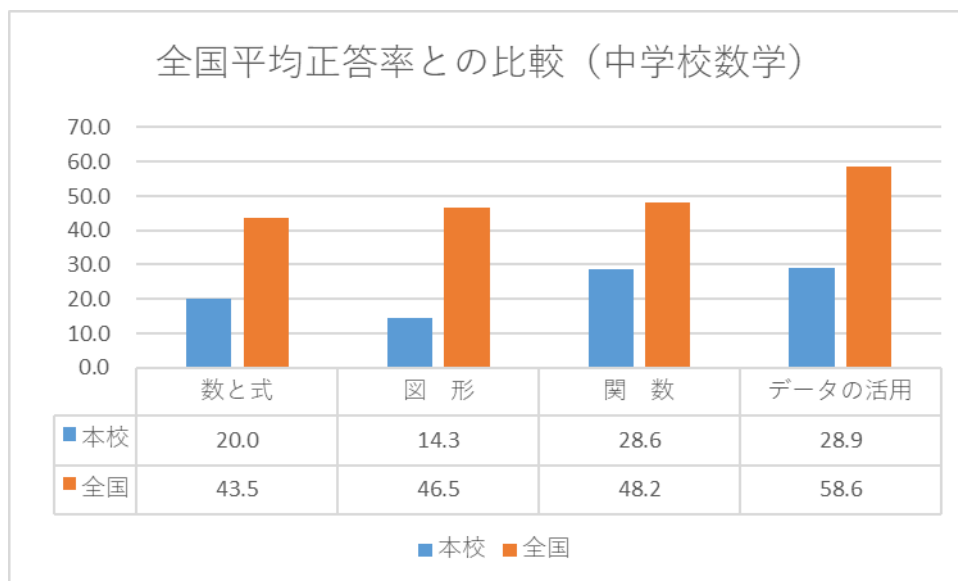
#### 【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書きに加え、辞書を活用させ、熟語の意味調べなどを通して語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。

#### 【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

### 3 数学



#### (1) 結果

4領域の全てで全国平均を下回る結果でした。特に「図形」の領域の正答率が下回っています。  
また、無解答率を見ると、「知識・技能」を問う問題では全国平均を上回っているものが多く、「思考・判断・表現」を問う問題では下回っているものが多くなっています。

#### (2) 成果と課題

今回の調査では、素数の意味を理解しているかどうかみる問題の正答率は県平均を7.6ポイント上回りました。単元の中で、数学用語の意味を自身で調べ、具体例を挙げる取り組みなどの成果が表れていると考えられます。一方で、式や図形から関係を見出すことや数学的な表現を用いて説明することができるかみる問題が複数出題されていましたが、どれも県平均、全国平均を大きく下回っていました。今後、式の意味を理解することや図形の性質から新たな関係を見出すことに加え、道筋を立てて説明できるようにすることが重要であると捉えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

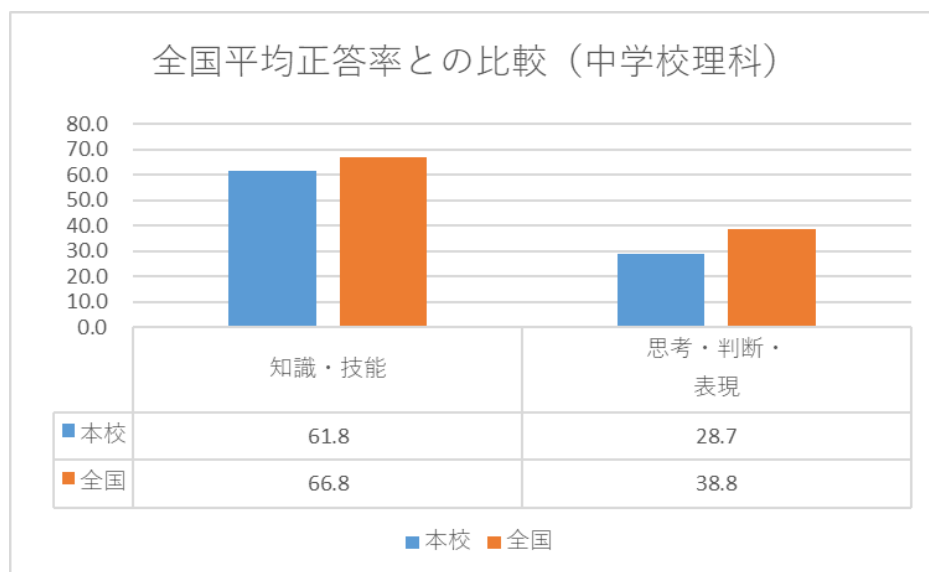
##### 【学校では】

- 式から答えを出したり、図形の性質を理解したりするだけでなく、単元の中で、式の意味を考えさせたり、既存の知識から新たな関係を見つけたりする時間を設け、活用力の向上を図ります。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に説明する機会を増やし、表現力の向上に努めます。

##### 【ご家庭では】

- 数学が好きになるには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、身の回りには数学を使えるものがたくさんあります。

## 4 理科



### (1) 結果

全国平均と比べると「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれも全校区平均からするとやや下回っています。また、記述式の問題はすべて解いており、無解答は0%でした。

### (2) 成果と課題

(1) の結果を問題ごとに見てみると、[「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する。]問題（正答率 100%）、[「Web ページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する]問題（正答率 95.6%）と正答率も高く、しかも、県平均を超えている問題も多数ありました。半面、「地層 1 から地層 4 までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する。」（本校正答率 14.3%、県正答率 35.1%）というように、正答率が県平均を下回っています。1 つ 1 つの学習した知識の定着を図ることが大切であり、学習した複数の知識を使って判断するような問題を多く取り組む必要があります。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 理科の観察・実験を増やし、学習過程を「事象提示→課題→予想（実験結果の予想）→観察・実験→結果→考察→まとめ→活用」の学習指導を行うことにより、学力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、知識定着のため、納得を伴った理解をさせるように、結果の理由を考えさせるようにします。

#### 【ご家庭では】

- 学校で学習した内容を家で必ず見直す家庭学習の習慣を身に付けさせることが大切です。さらに、関連する問題を一問でも解くようにすれば、テスト対策にもなります。
- 科学館に家族で行ったり、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせたりすることはとても大切です。お子さんと一緒に天気図を見て天気予報をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、学習と日常生活を結びつけると理解がより深まります。